

週刊センターニュース No.225



第225号(2008年9月18日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

第199回共同学習会のご案内

日時: 9月25日(木) 16時30分～18時

会場: 角間キャンパス総合教育1号館2階大会議室

発表者: 渡辺達雄 他 授業担当者(大学教育開発・支援センター)

テーマ: 「大学・学問論」 - 人間社会学域共通科目の検討(第3回目)

趣旨: 人間社会学域共通科目「大学・学問論」の授業内容について授業担当予定者を中心に学域共通科目の内容としてふさわしいものは何かという視点で議論してきたが、今回はその確定を行う。多くの教員の参加をお願いしご意見をいただきたい。

地域科学研究会セミナー「アウトカム(到達目標)の策定と評価 学士課程教育のコンセプトと教学運営 ～ 入学から卒業までの学習支援・教育責任の組織力 ～」 参加報告

2008年7月30日(水)に開催された地域科学研究会・高等教育情報センター主催の標記セミナーに参加した。2008年3月末に中央教育審議会大学分科会制度・教育部会が「学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)」を出したのに伴い、各方面で「学士課程」、「アウトカム評価」、「学士力」等についての解説、議論がなされているが、このセミナーもその一つである。上記「審議のまとめ」については、当センターの共同学習会(渡辺准教授担当)でも取り上げ、学内への理解を図ってきている。今回のセミナーにおいては、吉岡俊正東京女子医科大学 医学部教授、濱名篤関西国際大学理事長・学長、濱口哲新潟大学副学長(学務担当)・全学教育機構副機構長・大学教育開発研究センター長の三氏による報告を通して、セミナーの趣旨に沿った情報提供が行われた。三氏それぞれのキーワードは、以下の通りである。

- 吉岡氏: 大学評価の国際標準化 / 継続的教育評価と改善 / アウトカム基盤型カリキュラムの構築
- 濱名氏: 到達目標の設計 / アウトカム評価 / 教育内容・方法の構造化 / 学習支援の組織力
- 濱口氏: 総合大学における実現への挑戦 / 制度設計の実際 / 主専攻プログラム化と実現方略

本稿では、吉岡氏、濱名氏の報告について簡単に紹介させていただく。

吉岡氏は、教育目標積み上げ型からアウトカム基盤型カリキュラムへの移行を目指す医学教育の現状を紹介された。医学教育においては、医師および患者の国際間移動に伴い、2003 年に World Federation for Medical Education(<http://www.wfme.org/>)がグローバルスタンダードを策定し、卒前、卒後、生涯教育において教育課程評価が世界共通化されている点、医科大学評価も世界基準で行われている点などからアウトカム基盤型カリキュラムが必要になってきていると述べられた。東京女子医科大学では、アウトカム基盤型カリキュラムとして、PBL(Problem-based learning)チュートリアル教育が実践されている。PBL チュートリアル教育とは、＜事例提示 問題発見（発散的討論） 振り返り（省察）と自己学習 問題解決（収束的討論） 次の問題発見＞の流れにおいて学生が学んでいく仕組みであり、学体系と実践の相互作用による学習である。アウトカムについては、測定評価可能な最終到達像として、具体的かつプロセスが明確であることをポイントとして指摘された。

濱名氏は、近年、世界的に大学教育に関して議論されている「ジェネリックスキル」について、英、米、豪および日本の厚生労働省「就職基礎能力」(2006)、経済産業省「社会人基礎力」(2006)などの事例を紹介しながら説明された。その上で、文部科学省が打ち出してきた「学士力」の内容として「21世紀型市民に必要な知識・スキル」であるとし、「I can・・・」で表現されるものであるとされた。なぜ、今、世界的に「ジェネリックスキル」なのかというと、従来の高等教育機関の質保証システム（学位制度、ピア・レビューシステム）への不満から、新しい質保証の仕組みが求められ、その中で、出口管理の点から卒業時の学生の達成度（ラーニングアウトカム）をどう担保するのかという議論が起こってきたからである。この流れを受けて、OECD を中心に高等教育版 PISA（学習到達度調査）策定の動きがあり、日本の文部科学省も具体化する方向で検討を始めており、認証評価の次のサイクルへの影響は大きいものと思われる。ラーニングアウトカムを図る仕組みとして、アメリカにおける外部共通テスト(CLA, College Learning Assessment/ MAPP, Measure of Academic Proficiency and Progress/ CAAP, Collegiate Assessment of Academic Proficiency)、オーストラリアにおける卒業生進路調査(GDS)、コース経験質問調査(CEQ)、大卒者技能検定(GSA)、スコットランドにおける高等教育資格枠組み(SCQF, Scottish Credit and Qualification Framework)などを紹介された。また、カリキュラム全体での人材育成目標と併せて、科目毎に、コミュニケーション能力、課題解決力、チームワークなどの諸要素のどれをのばせるのかを明示する仕組みも紹介された。

本セミナーに参加し、教育面における組織的活動の重要性を確認したとともに、今まで以上に、目標、ゴールを明確にした教育が求められ、提示した目標へ到達したかどうか問われるアウトカム重視の教育を具体化する必要性を実感した。

（文責 評価システム研究部門 堀井祐介（全学 FD・ICT 教育推進室実務委員会委員長））